



慶春

あけましておめでとうございます
本年もよろしくお願ひします

立教百八十四年 元旦
天理教夕張大教会 会長 藤田文雄

美重子
役員一同

ひきよせ

発行所
天理教夕張大教会
〒068-0029
北海道岩見沢市9条西6丁目
☎ 0126-22-1248
FAX 0126-23-7275
yubaridai146@gmail.com

ホームページ
bariten.main.jp



LINE 友達登録
お願いします

貴方への手紙 (321)

新年を迎え、どの人の胸にも今年が新型ウィルスが収束し、伸びやかな清々しい暮らしが、始まるよう願っておられると思います。

今年が夕張大教会として大きな節目、六代会長就任奉告祭が9月4日(土)に挙行されます。その直前にオリンピックが開催される予定です。

奉告祭で最も大事なことは感謝と誓いを込めた一手一つのおつとめを勤めることです。皆さまにご参拝いただけるよう準備を進めて参ります。

しかし今の状況です。世情をにらみながらのご案内になることでしょうか。

いづれにせよ、この句はそれぞれの信仰の元一日に帰り、先人のご苦勞を偲び、新たに前進を誓う句でありたいと願っています。

皆さまが今できる恩返しのためを待つべき句としてくださるなら幸いです。

来たる6月26日ご任命頂く日から会長を交替し、バトンを渡

お知らせ

1月15日 大教会春季大祭 進級進学のお願ひづとめ
1月26日 春季大祭 一般参拝者の昇殿参拝が始まります 詳細は4p
1月27日 少年会年頭幹部会(育成会長、団長のみ)

します。どうか新たな門出を祝って下さいますようお願いいたします。

今、確かにつらい日々かもしれませんが、しかし、そんな中も笑顔と感謝で、人に優しく温かく過ごし心をつないで、新しい時代を楽しみに迎えたいと思います。

教えに親しむよう毎日一冊でもお道の本を読み、お話を聴くことで心を育てましょう。いくつになっても人は成長します。学ぶ楽しみがあると思います。「天理時報」「陽気」「すきつと」ほか種々の本があります。ネット動画での講話もあります。私もこの頃チャレンジしています。奉告祭までの状況はこの月報「ひきよせ」や、教会を通してのご案内でお知らせしますの

でよろしくお願ひします。

月刊誌「陽気」をご存知でしょうか?今、私は「陽気」がもっと多くの人に読まれるよう推進するお手伝いをしています。信者さんの中には多くの読者がおられますが、もっと多くの人に読まれるよう、1月から装い

も新たに販売されることになりました。

私からは、お道の本がもっと読まれるよう、そしてぜひ陽気を読んでください!とお願ひしたいのです。お道の出版物を皆さまが読んで育ててください。インターネットでも「陽気チャンネル」という動画が観られます。この年末年始には前表統領、元表統領も直接お話をされます。今から楽しみます。

皆さんもネットでのお話をご覧になって心の養いにして下されば幸いです。

流行病の治まらない今、孤独に沈む人が増えているように思います。腹を立てる人も多くなっているようです。なぜでしょう?寂しいのですね。

元々、人はさびしさを感じるのが当たりまえ。それは人類、共通の感情のようです。親に護られていた幼な子が、いつか独立するわけですから、人生にはどうしてもさびしさが潜みます。子供も若者も人間全般、感情の奥底にはさびしさがあると言われます。

会うは別れの始め、と言うように人生はさびしいことの連続でもあります。しかしそこから芸術も信仰も始まるのではないのでしょうか。人を愛することもそこから始まるように思います。人間としての成長も一人孤独に耐えて生きるところにあるでしょう。

花木を育てたり、人を育てたりすることに喜びを感じることも、元はといえばさびしさが無関係とは思えません。

人は誰かを幸せにするために生まれてきた。そして生きていく。ひとをたすけてわが身たすかる。人ははたらきに生まれてきた。はたらくとは、はたはたを樂させること。周りの人の樂になり樂しみになると結局は自分が喜べる。そんなはたらきで今年も元気に過ごしましょう！頑張りましょう。

十一月月次祭の様

冬の足音が近づく11月、初旬には例年より早く大雪が降り、一足早く雪かきに追われる人が多かった。岩見沢でも40センチからの雪が降り、本格的な冬の到来かと思いきや、また気温の上がる日もあって雪は融け、秋らしい気候の日も続いていた。十月の末から道内ではコロナウイルスの感染が再度広がり、一段と感染リスクに気を配る必

要が出てきた。十一月は月次祭に加え、秋季御霊大祭、新穀感謝祭が執り行われ、準備の人手もなかなか集まらなかったが、少ない人数でも勇み心で働き、神前には例年通り部内教会・信者さんからの真実のお供えが所狭しと積み上げられた。

迎えた15日、9時半から開扉献饌、のち祭文奏上。続いて座りづとめ・十二下りのてをどりが勤められた。おつとめ奉仕者の交代の度に換気が行われ、外気の冷たさに震えながらも、勇んだおつとめが勤められた。

十二下り終了後、直ちに準備がなされ、秋季御霊大祭が執り行われた。この度の御霊大祭では、新保黎子様・清真布分教会四代会長と村山更治様・津別分教会信者の二柱が合祀され、関係者が参拝した。また通常では各教会・各会から代表者が参拝するところであったが、コロナ対策の観点から、後継者・藤田大和氏が代表して参拝した。

その後、大教会長は「コロナウイルスの影響で自粛や活動の制限が続く、精神のバランスを崩して、自ら命を絶つたり、怒りつぼくなる事が増えた人が多いうです。信仰ある我々は、どんな中でも喜ぶ事が出来る、という事を周りの人に伝えていきたいですね。私の母がよく言っていました。どんなに辛い中

でも喜べる事があるんだ、と。つまり、たんのうの心ですね。こんな時だからこそ、実行し、たくさんの人に伝えていきたい。各所で行事の中止が続いています。来春の春学も中止だそうです。ですが、十月のおぢばの大祭は久々に多くの人が集まり、なかなか賑やかにしました。

また、来年の一月からは、直属ごとに教会の数だけ、参拝が出来るようになります。教会長に限りませんので、行ける方は行って頂きたいと思います。

そんな発表があつてから、また感染状況が変わつて、感染者の数もまた増えてきました。難しい中ですが、我々の出来る事を考えて、心を繋いでいきたいと思ひます。この状況で、孤独を感じる人、独りぼつちになつてしまう事、あると思うんです。そういった人達にしっかりとアプローチをしていきたい。

人間の生き方、信仰の方法として『行』というものがあります。お坊さんの修行もその一つです。お坊さんの教えには、善悪とか行といった、はっきりした言葉はない。断食や不眠不休といった行をするように、特別言われている訳ではありません。じゃあ『行』がないか、ということと私は大きなものがあると思つています。我々は日々の生活で陽気ぐらしをするように教えら

れています。人間には喜怒哀楽というものがある。心の自由は許されているわけですが、陽気ぐらしを『行』と考えると、なかなか大変なことだと思ふんです。お道では『勇んで』という言葉がよく出ます。なかなか喜べない中から、喜びの種を見つけて出して、自分を勇ませる。これは大変な『行』ですよ。また自分自身を勇ませる事は当然として、周りも勇ませなければならぬ。その中に我々信仰者の腐心があつて、真実があるのではないかと思ひます。このコロナ禍の中にあつて、喜べない中自分を勇ませる、周りを勇ませる事がどれだけ出来るか、我々信仰者にとつての試金石だと思ふ訳であります」と話された。

祭典後に予定されていた、来年度の六代会長就任奉告祭の実行委員会はコロナウイルスの感染状況を鑑みて、延期された。

十二月月次祭の様

前日から降り続く雪は、道内を局地的に覆い込み、岩見沢周辺では15日夜まで断続的に吹雪き、積雪は101センチ（平年の3倍）となった。境内地では青年が代わるがわるタイヤシヨベルに乗り込み、除雪を行った。大教会長は祭文で、日頃のご厚恩に感謝を述べ、今年のコロナ感染拡大について「この節を

乗り越えた暁には晴れやかな喜びの日が来るのでありますから、ようぼくとしての熱を失わず、にをいがけおたすけ、つくし運びひのきしんに励ませていただきたく存じます」と奏上し、その後、願いを込めた、おつとめを勤めた。

十二下りのてをどりが勤め終え、まず、大教会長がお話に立ち、11月26日に新会長となつた藤田豊、幌部分教会長を紹介し（4pに記事）、続いて「ある医者の方の実験を紹介いたします。こういうこと日本ではできないと思ひますけど、1人の感染者の周りに医療関係者37人がマスク以外の防護服を着ないなか看護し、3週間ほどで13人が感染したそうです。その中の1人に症状が出た。他12人は無症状だったが、強い抗体を獲得した。それは何故か。マスクをしていても、少量のウイルスを取り込み、少しづつ、ちよつと身体に入りしている内に、非常に強い抗体を持つように至つたということ。こういうことを真似するわけにはいかないけれども、実験した医者は、マスクはいよいよということを言いたいですね。

今ワクチン接種が進んで、夏頃にコロナが収まればいいなという希望ですね。まだ大変な状況ですが、ようぼくとしての熱、情熱までしょぼんとしてしまつ

就任奉告祭実行委員会

令和3年の新春を迎え、何れともあれ、お祝いを申し上げます。夕張大教会は、本年、後継者の藤田大和氏が六代会長に就任され、9月4日、真柱様をお迎えし「会長就任奉告祭」が執り行われます。

大教会に繋がる私たちは、この喜びの時旬を迎え、心の成人に励み、次の世代に信仰を伝えなければと思います。

現在は、新型コロナウイルス感染症の影響があり、皆様には色々な事が決まり次第、教会やこの「ひきよせ」を通してお伝えしてまいりますので、何卒御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

実行委員長 梶川 卓一

婦人会

今年はどうなるのでしょうか？今の状況が収束され新しい歩みを進めたいのはみんなの願いだと思います。

大教会での婦人会例会は活動の柱ですが昨年はできずに残念なことでした。その中も婦人会本部創立110周年への日々の御供に皆様の御心寄せを頂き、ありがとうございます。婦人会としては今年のおちばへのつとめはもちろん、大教会が9月の就



任奉告祭に向かつて歩む上に尽力させてもらいたいと思います。奉告祭への準備がいろいろありますが、大教会の布団の中で40年以上使用しているものを入れ換えさせてもらいたく、まず敷布団40枚を新調しました。数年前に新しい布団セット30組をお供えして下さる教会がありましたが、今後も整備して行きたいと思えます。様々なことで皆さまのご協力をお願いする事になると思っています。

一日も早くコロナ禍が収束して笑顔で皆さんとお会いしたく願っています。それまでお元気で！どうか今年もよろしくお願います。

青年会

昨年コロナウイルスの影響もあり、主だった行事は中止となり、なかなか思うような活動が出来ませんでした。しかし、この状況下でそれぞれの教会に繋がる会員に対し、出来る事は何か、必要な事は何か、と考える良い機会を与えて頂いたと考

支部長 藤田美重子

少年会

今年もどうぞよろしくお願います。委員長 藤崎 勇

年明けて、依然コロナ収束しておりませんが、活動できることを考え進めていきたいと思えます。そこで早速ですが、『雪だるまコンテスト』を開催します。雪だるま、雪像、モニユメントなど、みなさんの雪の아트作品の写真を投稿して頂き、youtubeで紹介しようと思えます。親子、友達と共同作成したり、冬の外遊びの楽しさをシェアしましょう！

投稿は夕張公式ラインにメッセージ送信するか、夕張団ツイッターに投稿をお願いします。大教会HPからも見る事ができます。



団長 藤田 豊

てはつまらない。我々の持つ大事なことだけは、熱は失いたくないです。そう申し上げます。続いで、幌部分教会前会長となった藤田好道氏がお話(短く



5分程として)の役割にあたった。昨日から大教会は大雪に見舞われ、吹雪の予報もあり、今朝無事来れるように、神様にもお願いをしております。

奉告祭でお配りした、しおりに私の挨拶載せてありますのでそれを読ませていただきます。『…前略…、35年教会長として勤めさせて頂きました。

幌部分教会は初代・木田羊作先生が、教祖四十年祭に向かう教勢倍加の勢い、そのおちばの空気を肌で感じながら、半年間の天理教校別科でご教理とその実践を学ばれ、勇躍札幌を布教地と定め、母トラノ様他妹様3人を伴って布教に出られてわずか8ヶ月、大正13年12月16日、ご存命の教祖のお許しを戴いて幌部分教会は誕生致しました。

その後も壮絶な苦勞の道中を通られ、教会所は移転を重ねて、羊作先生は58歳で出直されました。その後、栗山分教会三代会長を勤めてこられた富山萬太郎先生が二代会長を8年間、そして三代会長を当時大教会後継者であられた藤田文雄先生が継承され12年間。そして私が、教祖百年祭間近の昭和60年に、四代会長の理のお許しを戴きました。着任した当時は家も少なく、教会の向かい側は原野でありました。現在では前も横も空き地はなくなり、昔を知る方々は当地域の変貌ぶりに迷われ、探し当てるのに苦勞するそうです。

初代羊作先生は生涯家に恵まれず、伏せ込み一条で通られました。そうしたお徳が現れたその上で私どもは幸せに通つて来られたと信じております。…中略…、優しい心、温かい心、人を助ける心、思いやりの心、人に優しく、そして自分にも優しく。何が起きてもその中に深い親心を感じながら。私もまだまだ若輩。いろいろ吸収しながら、教えを乞いながら、何からでもこつこつと勤めさせて頂きたく存じます。今後ともどうぞよろしくお願ひ申し上げます。』と、しおり内の挨拶を話された。終了後、参拝者はお下がりのパンを頂き、天候を伺いながら帰路についた。

立教184年 昇殿参拝について

御本部より、「立教184年1月から5月までの春季大祭、教祖誕生祭、及び月次祭に、各教会から代表の方に昇殿参拝をしていただきます」とご連絡がありました。

つきましては希望の月がありましたら、担当の高橋太志までご連絡ください。なお、人数は毎回8名になっておりますので、希望者が8名以上になった場合、ご相談させていただく場合がございますので何卒お願いいたします。

○注意事項

・直属ごとにまとまってご参拝

コロナを越えて奉告祭

まだ雪が積もっていない12月5日、札幌市手稲区の幌部分教会で、大教会長様ご夫婦と後継



していただきます
・車イス利用の方はスロープ昇降口から入場してください
※付添の人の必要

・殿内での椅子の使用はお控えください
使用される方は、車椅子席にてご使用ください

・殿内では、係員の指示に従ってお座りください

○服装

・ハッピー（正装）

・マスクを必ず着用してください

○お願い

・体調に不安のある方はお控えください
・事前に検温と体調管理をお願いします

者・大和様、札幌北西支部長様のご来賓を迎えて、五代会長就任奉告祭が執り行われた。コロナ禍のため、たくさんの方々が集まらず。またマスク、消毒、換気に気を付け、祝宴はなく、お弁当のお持ち帰りというスタイルだった。

十二下りのおつとめを勇んでつとめられた後、大教会長は、幌都の三代会長をつとめた三十年以上も前の、すっかり様変わりした周辺の風景や生活にも触れ祝詞とされた。

前会長・藤田好道氏は、初代・木田羊作先生の苦勞の歩みを偲び、バトンを次に渡せる喜びを

くらしと信仰

：突っ張ること：

学ランを着て、リーゼント姿の歌手が、♪つつばる事が男の、たつた一つの勲章だつて…♪と歌っていた頃、十全のご守護の説き分けの話を聞くと、ツツパリ学生を思い出して、吹き出しそうになった。

親神様の十全のご守護「月よみのみこと」様の神名には、「人間身の内、男一の道具、骨つっぱり、世界では万よろづつぱりの守護の理」と教えられるが、日常生活、人との関わりで、突っ張ると、仲良く暮らせないことが多い。

旭川の80才代のOさんは、小学校にも3年しか通っていない方だったが、十代に培った農業、林業、炭焼きなどの実生活の技術と根性と努力を生きる糧として、一流大学卒業の人とも対等にモノの理屈について語り合っていた。

これが突っ張り合いで、木工に秀でていたので、こだわりも強くとうとう、桂の材料で、囲碁の基盤を自分で作り、真っ直語った。式典の最後には新会長が、前々会長、前会長、新会長の三代が揃ってつとめることが出来た喜びをお札に述べて頭を下げた。

ぐな線を描くために、年金を貯めて、日本刀を買った。「定規が曲がっているのを直していくのが大工なんだ」と突っ張つて言つたがために、究極の買い物。ある時、仕事場を覗いたら、その刀で鉛筆を削つていた。奥さんは賢く、絶対にぶつからない方である。付き合い方の達人なのだと思つた。

庶務部 11・12月

- ▽おさづけの理拝戴
白川 真紀（祝梅） 11・15
- ▽をびや2件
阿部 恭子（直轄） 11・15
- ▽詰所ひのきしん
阿部 恭子（直轄） 11・15

大教会日誌抄

- 11月 1日 たすけ推進会議
青年会・雪囲い
- 5日 会長、陽気ぐらし講座
(リモート開催)
- 6日 会長、幌部分月次祭
- 9日 会長、関東方面講社祭 13日
- 14日 月次祭準備
- 15日 月次祭、秋季霊祭、新穀感謝祭
- 21日 大教会裏堀沿い木倒木ひのきしん 22日
- 23日 会長、おちばへ
- 24日 会長、本部神殿当番
- 26日 本部月次祭、遥拝式
- 27日 会長、かなめ会
- 28日 会長、帰会

編集後記

2021年の新年に期待するところは大きい。昨年は前代未聞のことが続いた。新型コロナウイルスは全世界を席巻して震え上がらせ、オリンピックを延期させ、ご本部への帰参も参拝さえも制限されるような、思つてもみない事だつた。

未来学者という人が「人類への神様からのお知らせ」「自然界からの意見」と言つて、尽きない欲望のための地球汚染を止めないと、大変だと指摘していた。夕張としても、大教会長の交代という時期となり、今、書類も書き進めているが、その奉告祭（9月4日）に向けての実行委員会も充分に動いていない状態が続いている。

月次祭に行けない。教会に集まらない。公共交通が危ない。という参拝を止める事から、それぞれの信仰についても、その意味合いを問われたことだろう。大教会から布教所の存続についてのお伺いが来た。布教所長は存命か。変更が必要なのか。活動が出来ていないのなら、解散するか否か？という処である。小生の教会では、かろうじて信仰の灯火を残してくれていて、3ヶ所が残った。夕張全体では80ヶ所が、どうなるのか。

- 12月 1日 たすけ推進会議
- 5日 会長夫妻、幌部分教会
五代会長就任奉告祭
- 14日 月次祭準備
- 15日 月次祭
- 19日 青年会・雪下ろし、
除雪ひのきしん 20日
- 22日 会長、おちばへ
- 24日 会長、本部神殿当番
- 26日 会長、本部月次祭、
会長、帰会
- 27日 大掃除
- 29日 元旦祭準備
- 31日